

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		国際経済論特研(International Economics Advanced Research)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
コア科目		2		経済学研究科 博士前期	後期	金3	氏名 柴田 茂紀											
							E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715											
授業の概要	理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。									○	○								
目標2 国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。									○	○								
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 世界の景気循環 (以下、テキスト)																		
3 総合商社と専門商社																		
4 世界の通商関係 (GATT・WTO体制)																		
5 世界の通商関係 (貿易協定)																		
6 世界経済前後の日本貿易																		
7 東アジアの生産ネットワーク																		
8 中間のまとめとテスト																		
9 国際貿易の基礎理論 1 (絶対優位と比較優位)																		
10 国際貿易の基礎理論 2 (ヘクシャー=オリーン・モデルとその後の展開)																		
11 国際貿易の理論的展開																		
12 国際経済統計の分析方法																		
13 為替レート決定メカニズム (																		
14 受講者の事例研究報告																		
15 まとめ																		
ラーニング エビ デ ン ス グ ラ フ	A:知識の定着・確認	○	課題図書を読みながら自分自身の疑問を自分で調べ、発表することで理					工夫 その 他の	学生同士の発表・質疑応答を通じて、説明力も養成していきます。									
	B:意見の表現・交換	○	解を深めていきます。															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	課題図書を事前に理解しながら読んでくること(15h)																
	事後 学修	授業中の疑問点を自分で調べ、次回以降の質問項目や議論に備えること(15h)																
教科書	第1回目の授業で指示します。																	
参考書	必要に応じて紹介します。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	平常点		60%	○	○													
	レポート		40%	○	○													
注意事項	・受講者の発表を中心に授業を進めます。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
		開発経済論特研(Development Economics Advanced Research)						対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
コア科目		2		経済学研究科 博士前期	前期	木7	氏名 木 村 雄 一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689									
授業の概要	農村低所得地域での貧困削減プロジェクトに対しての評価を可能にするため、農業家計の行動、所得向上についての理論・実証分析のフレームワークを学ぶ。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)									
目標1	各箇所の論点を把握し、述べるができること。						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	諸問題が起きるメカニズムを理解すること。															
目標3	原因の理解の上に立ち、政策案を考えることができること。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	本科目の動機付けについて															
2	序章 途上国の貧困・脆弱性問題															
3	第1部 貧困の経済分析の基本															
4	1 貧困の概念と計測															
5	2 家計レベルの所得貧困の決定要因															
6	3 経済成長、不平等、貧困のトライアングル															
7	4 貧困削減政策の評価															
8	第2部 貧困・脆弱性の動学的ミクロ分析															
9	5 経済階層移動と脆弱性の概念															
10	6 不確実性下の動学家計モデルに基づく貧困・脆弱性分析															
11	7 脆弱性の諸指標															
12	8 貧困の一時的要因と慢性的要因への分解															
13	9 所得ショックに対する消費の「過度の反応」															
14	10 途上国の貧困・脆弱性分析の今後															
15	まとめの議論、論点の整理															
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認		○	毎回のマテリアルをもとに予習して論点を把握した上で参加し、議論を行う。				工夫その他の								
	B:意見の表現・交換		○													
	C:応用志向		○													
	D:知識の活用・創造		○													
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	予習（マテリアルを読む）														
	事後学習	論点の整理と理解														
教科書	黒崎 卓 2009. 貧困と脆弱性の経済分析（シリーズ 開発経済学の挑戦2）勁草書房.															
参考書	黒崎 卓. 開発のミクロ経済学理論と応用 一橋大学経済研究所叢書 2001（岩波オンデマンドブックス 2016）															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	予習、参加と議論					100%										
注意事項																
備考	本編のスケジュールには入っていないが、国際秩序・覇権、武力紛争に関係する国際政治のトピックを同時並行的に参照するかもしれない。															
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式														
		証券市場論特研 (Securities Market Advanced ResearchI)						対面														
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
コア科目		2	1.2	経済学研究科 博士前期	前期	月6	氏名 金 珍 奎 E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690															
授業の概要	本授業では、証券市場の様々な問題を取り上げ、国民経済と証券市場の関係について学習します。 株式・債券市場の分析に重点を置きつつ、投資信託やデリバティブなどについても学習します。																					
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	証券市場の仕組みと機能がわかるようになる。										○											
目標2	アジアの証券市場をはじめ、世界の証券市場の現状と課題を把握できるようになる。									○												
目標3	株価の形成について分析ができるようになる。											○										
目標4																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1		ガイダンス																				
2		株式投資の二大流派																				
3		株式市場のバブルについて																				
4		アメリカの株式市場																				
5		アメリカの株式市場																				
6		ファンダメンタル分析																				
7		ファンダメンタル分析																				
8		テクニカル分析																				
9		テクニカル分析																				
10		証券投資理論																				
11		証券投資理論																				
12		世界の株式市場について																				
13		韓国の株式市場について																				
14		中国の株式市場について																				
15		総まとめ																				
ラーニング チェック ポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ○ 	参加学生の発表をつうじ、学習内容を確認する。また、質疑応答や議論をつうじ、意見を交換するとともに、プレゼンテーションのスキルを向上させる。								工夫 その 他の											
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	テキストの発表準備をする(20h)。																				
	事後 学修	学習内容の復習を行う(20h)。																				
教科書		バートン マルキール (著)、井手 正介 (翻訳) 『ウォール街のランダム・ウォーカー』日本経済新聞社、最新版。																				
参考書		1. 川北英隆 『テキスト株式・債券投資』中央経済社、2006年。 2. 『証券投資の思想革命』東洋経済新報社、2006年。 ピーター・L. パーンスタイン (著)、青山 譲、山口 勝業 (翻訳)																				
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法										割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	発表										50%	○	○									
	質疑応答										30%	○	○									
	レポート										20%			○								
注意事項		授業の参加者は、毎回指定された課題を提出する必要があります。 課題については、ガイダンスのときに説明します。																				
備考		レポートの課題についてもガイダンスのときに説明します。																				
リンク																						
		URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		国際金融論特研 (International Finance Advanced Research I)							対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	火6	氏名 小笠原 悟												
							E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713												
授業の概要	本講義では、学部レベルの国際金融の基礎的な理論をを学び、国際金融の制度、歴史、現状について理解できるようにすることが狙いです。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	基礎理論をベースに国際金融の現状を理解する																		
目標2	自ら課題を見つけ、調査報告できる																		
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1		国際収支と為替相場																	
2		経常収支と国際貸借																	
3		国際経済におけるマクロ経済政策																	
4		国際金融のトリレンマ																	
5		マクロ経済政策の国際協調																	
6		為替相場の決定要因																	
7		為替相場決定モデル																	
8		小論文中間報告																	
9		為替介入と外貨準備																	
10		通貨統合と最適通貨圏の理論																	
11		国際通貨体制																	
12		通貨危機の類型とその応用																	
13		国際金融アーキテクチャー																	
14		まとめ																	
15		小論文発表																	
ラック ニ ン グ	A:知識の定着・確認		国際金融に関わるテーマで小論文を作成、発表します。					工 夫	そ の 他 の										
	B:意見の表現・交換	○																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造	○																	
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	担当以外の学生も予習としてテキストを下にレジメを作成していただきます(30h)。																	
	事後 学修	授業での学びを生かし、小論文を作成の準備をします(15h)。																	
教科書		特に指定しません。																	
参考書		小川英治/岡野衛士『＜サビエンティア＞国際金融』東洋経済新報社 2016年 P.R.クルーグマン、M.オブスフェルド『国際経済学 - 理論と政策下 金融編』原著第10版 丸善出版 平成29年																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10		
	レジメの提出						25%	○											
	授業での貢献						25%	○											
	小論文						50%		○										
注意事項		各自作成したレジメは授業終了後Moodleから提出していただきます。																	
備考		無断欠席は厳禁です。 受講生のバックグラウンドや授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。																	
リンク																			
		URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の実務 経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験を いかした教 育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)				授業形式							
			国際金融論特研 (International Finance Advanced Research II)															
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2		博士前期課程	前期	月3	氏名 小笠原 悟											
							E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713											
授業の概要	金融のグローバル化や自由化が進む中で、金融市場の安定性が損なわれたり、一国の金融危機が他国へ伝播するなど、現代の国際金融通貨システムが抱える問題点が浮き彫りになってきている。本講義では、国際金融の上中級レベルの文献（英語の文献を含む）を読みながら、国際金融通貨システムの諸問題を理解する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	近年の国際通貨システムの問題点を理解する																	
目標2	金融関連の統計データを読めるようにする																	
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	ガイダンス																	
2	グローバル化のベネフィットとコスト・リスク																	
3	アジア通貨危機																	
4	世界金融危機																	
5	欧州債務危機																	
6	金融グローバル化の推進役																	
7	金融グローバル化のリスクへの対応																	
8	金融セクターの使命																	
9	小論文中間報告																	
10	国際機関（IMF，BIS，FRB，日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
11	国際機関（IMF，BIS，FRB，日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
12	国際機関（IMF，BIS，FRB，日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
13	国際機関（IMF，BIS，FRB，日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
14	国際機関（IMF，BIS，FRB，日銀等）の報告書等をベースにディスカッション																	
15	小論文最終報告																	
ラ イ ク ニ テ ィ ング	A:知識の定着・確認				上記2～8まで学んだ上で国際金融に関わるテーマで小論文を執筆し、発表します。				工 夫		そ の 他 の							
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造		○															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配布資料を読んで、内容について理解しておく必要があります（30h）。																
	事後学修	授業での学びを生かし、小論文を作成します(15h)。																
教科書	荒巻健二『金融グローバル化のリスク』日本経済新聞社 2018年																	
参考書	授業中に指示します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	授業中の貢献度						50%	○	○									
	レポート						50%	○	○									
注意事項	IMF，BISなど国際機関の報告書は英語のみです。																	
備考	テキストおよび報告書については毎回担当者を決め、発表します。 無断欠席は厳禁です。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の実務 経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験を いかした教 育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
KE40I207		国際貿易論特研(International Trade Advanced Research)																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2		経済学研究科 博士前期	前期	金7	氏名 柴田 茂紀											
							E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715											
授業の概要		理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。									○	○								
目標2 国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。									○	○								
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 国際貿易の理論1(比較優位と絶対優位)																		
3 国際貿易の理論2(ヘクシャー=オリーン・モデルとその後の展開)																		
4 国際貿易の基礎理論3(新貿易理論と新々貿易理論)																		
5 国際貿易理論の歴史的展開																		
6 国際貿易理論の現実的展開																		
7 国際貿易理論の応用・活用方法																		
8 国際貿易と国際投資																		
9 国際収支																		
10 為替レートと国際貿易																		
11 国際貿易統計の分析方法																		
12 国際経済統計の分析方法																		
13 国際貿易システム																		
14 受講者の事例研究報告																		
15 まとめ																		
ラーニング ポイント グループ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		○ ○		課題図書を読みながら自分自身の疑問を自分で調べ、発表することで理解を深めていきます。		工夫 その他の		学生同士の発表・質疑応答を通じて、説明力も養成していきます。								
時間外学習 の内容と時間 の目安		準備 学修 事後 学修		課題図書を事前に理解しながら読んでくること(15h)														
				授業中の疑問点を自分で調べ、次回以降の質問項目や議論に備えること(15h)														
教科書		第1回目の授業で指示します。																
参考書		必要に応じて紹介します。																
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法					割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10		
	平常点					60%	○	○										
	レポート					40%	○	○										
注意事項		・受講者の発表を中心に授業を進めます。																
備考																		
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		証券市場論特研 (Securities Market Advanced Research II)																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	1,2	経済学研究科 博士前期	後期	火3	氏名 金 珍 奎											
							E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690											
授業の概要		本授業は、日本と中国の株式市場を対象にし、その現状と比較分析を行う。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 日本と中国の株式市場の現状を把握・分析できるようになる。									○	○	○							
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 日本株式市場の発展過程																		
2 中国株式市場の歴史																		
3 日本と中国の株式市場の現状																		
4 日本と中国の株式市場の監督体制																		
5 日本と中国の機関投資家																		
6 日本と中国の株式市場改革について																		
7 日本と中国の債権市場																		
8 Q F I I について																		
9 Q D I I について																		
10 中国の投資信託																		
11 日本の投資信託																		
12 中国の外国人投資家																		
13 日本の外国人投資																		
14 日本と中国の証券会社																		
15 総まとめ																		
ラック ニテン グ		A:知識の定着・確認		○	発表と議論を積極的に行う。				工夫 その他									
		B:意見の表現・交換		○														
		C:応用志向																
		D:知識の活用・創造																
時間外学修 の内容と時間 の目安		準備 学修																
		事後 学修																
教科書		日本証券経済研究所『図説日本の証券市場』最新版																
参考書		日本証券経済研究所『アジアの証券市場』最新版																
成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法				割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	発表				50%	○												
	質疑応答				30%	○												
	レポート				20%	○												
注意事項																		
備考																		
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
KE401209		EU政治経済論特研 (The Europeanization of the EU Economy Advanced Research I)						対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1、2	経済学研究科 博士前期	前期	火3	氏名 デイ スティーブン										
						E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676										
授業の概要	The goal of this module is to provide an insight into the dynamics associated with the historical and contemporary development of the European Union and the processes of integration. The main focus will be upon key events and actors that have been responsible for driving political and economic integration. In addition, we will take a look at the evolution of the theoretical ideas that have accompanied this story.															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Develop an awareness and understanding of the EU						○		○	○		○				
目標2	Ability to comment on the process of European integration/disintegration in a critical and cogent manner						○	○			○	○				
目標3	Build the necessary confidence to engage with and analyze events						○	○	○	○		○				
目標4	Think theoretically and conceptually about EU politics and economics						○	○				○				
目標5	Recognize the contested nature that accompanies the process of EU integration						○	○			○	○				
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	Introductory overview															
2	What is the EU?															
3	The EU in the 2020s - The political situation across the member states															
4	The EU in the 2020s - Key issues affecting the EU															
5	Historical dimension - Calls for European integration prior to 1945															
6	Historical dimension -The Schuman Plan and the European Coal and Steel Community (ECSC)															
7	Case Study - What were the norms and values that drove the 'founding fathers'?															
8	From the European Economic Community (EEC) to the European Union (EU)															
9	EU Enlargement															
10	Theoretical and Conceptual Overview															
11	Federalism and functionalism															
12	Neo-functionalism and supranationalism															
13	Liberal intergovernmentalism and 'New' liberal intergovernmentalism															
14	Alternative theories of integration															
15	Is the future one of integration, differentiated integration or disintegration?															
リンク	A:知識の定着・確認	○	There will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating and deconstructing a wide range of media reports.				工夫	その他								
準備	30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text book as well as a number of newspaper articles that will be provided in class.															
事後	15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards researching, structuring and writing the assigned essay.															
教科書	Hubert Zimmermann and Andreas Duer (eds.) Key Controversies in European Integration, Palgrave 2021 (Third Edition)															
参考書	Journal of Common Market Studies. Additional material will be distributed during the module															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	Essay	60%	○	○	○	○	○									
	Class-based exercises	40%	○	○	○	○	○									
注意事項	The determination to study the European Union (EU), in English, and a willingness to participate in classroom based activities															
備考	A willingness to engage in critical thinking as we make use of a plethora of different source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.															
リンク																
	URL															

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)				授業形式									
			EU政治経済論特研 (The Europeanization of the EU Economy Advanced Research II)																	
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
選択		2		経済学研究科 博士前期	後期	火7	氏名 デイ スティーブン													
							E-mail sday@oita-u.ac.jp 内線 6676													
授業の概要	This module examines aspects of the institutional development of the European Union (EU) against the backdrop of Brexit and the rise of populism. In so doing, it will: 1) highlight the evolution of key EU institutions and the role that they play within the EU institutional architecture. 2) assess the nature of the relationship between the EU and the Member States. 3) ask in which direction is the EU in the wake of Brexit and electoral rise of populist political forces. The situation of the UK post-Brexit will also be scrutinized.																			
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Develop an awareness and understanding of the European Union and the UK										○	○				○				
目標2	Ability to comment on the process of European integration/disintegration in a critical and cogent manner										○			○		○				
目標3	Build the necessary confidence to engage with and analyze contemporary events as they happen										○			○		○				
目標4	Recognize the contested nature that accompanies opinions about EU integration and Brexit										○		○			○				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1		Introductory overview																		
2		An historical overview of the origins of the EU (1950-1992)																		
3		The development of the EU since the Maastricht Treaty																		
4		EU institutions - the European Commission and the ECJ																		
5		EU institutions - the European Council and Council of the EU																		
6		EU institutions - the European Parliament																		
7		European Parliament elections																		
8		Understanding populism - some conceptual insights																		
9		Does the rise of populist political forces pose an existential crisis for the EU?																		
10		The European Union and the UK - an historical and contemporary perspective																		
11		Why Brexit? Reviewing the referendum campaign																		
12		Understanding the process of Brexit - The era of PM May and PM Johnson																		
13		Thinking about the impact of Brexit - economics and politics																		
14		Thinking about the impact of Brexit - territorial issues and the future of the UK																		
15		Where next for the EU-27?																		
ラーニング目標	A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.										工夫その他の							
ラーニング目標	B:意見の表現・交換	○																		
ラーニング目標	C:応用志向	○																		
ラーニング目標	D:知識の活用・創造	○																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text book or newspaper/magazine article that will be provided in class																		
	事後学修	15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards researching, structuring and writing the assigned essay																		
教科書	『「ブレグジット」という激震―混迷するイギリス政治』スティーブン・デイ・カウ昌幸 共著 2021年, ミネルヴァ書房																			
参考書	Journal of Common Market Studies																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	Essay	60%	○	○	○	○														
	Class-based exercises	40%	○	○	○	○														
注意事項	The determination to study the European Union (EU) and Brexit via English and a willingness to participate in classroom based activities. Students are strongly encouraged to take The Europeanization of the EU Economy – Advanced Research I																			
備考	A willingness to engage in critical thinking as we make use of a plethora of different source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.																			
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式																						
KE401215		経済史特研 (Economic History Advanced Research I)							対面																						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																								
選択		2		経済学研究科 博士前期	前期	金4	氏名 市原 宏一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719																								
授業の概要	近代世界システム論や環境史をめぐる論議動向を概観しつつ、ヨーロッパにおける近代社会の形成過程を諸地域・諸国家の結合する世界的なシステムのレベルで把握するという、社会経済史的な考察方法を理解する。																														
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	先行研究の整理と史資料の読解																														
目標2	修士論文作成を可能とする力の育成																														
目標3																															
目標4																															
目標5																															
目標6																															
目標7																															
目標8																															
目標9																															
目標10																															
授業の内容																															
1	ヨーロッパ工業化についての研究概観																														
2	ヨーロッパ工業化についての研究概観																														
3	ヨーロッパ工業化についての研究概観																														
4	工業化についての国家・地域各論																														
5	工業化についての国家・地域各論																														
6	工業化についての国家・地域各論																														
7	環境史についての研究概観																														
8	環境史についての研究概観																														
9	環境史についての研究概観																														
10	環境史についての地域各論																														
11	環境史についての地域各論																														
12	環境史についての地域各論 世界システム論についての研究概観																														
13	世界システム論についての研究概観																														
14	世界システム論についての研究概観																														
15	世界システム論についての研究概観																														
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認				授業課題に関連する報告要旨づくりなどに取り組み、複数の先行研究についての調査と文献リストづくり等を行う										工 夫 そ の 他 の																
B:意見の表現・交換																															
C:応用志向																															
D:知識の活用・創造																															
時間外学修 の内容と時間 の目安	準備 学修	課題に関して、先行研究などの調査などを行ったうえで、要旨を作成する。5 h																													
	事後 学修	教員およびほかの院生からの指摘を踏まえて、報告要旨の修正を行い、さらに先行研究などの調査などを加える。5 h																													
教科書	外国語文献を使用するが、講義の際に説明する。																														
参考書	関連する文献を講義の際に紹介します。																														
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法											割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	授業における報告											40%																			
	最終レポート											60%																			
注意事項																															
備考																															
リンク																															
	URL																														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		経済史特研 (Economic History Advanced Research II)																
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2		経済学研究科 博士前期	後期	金6	氏名 市原 宏一 E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719											
授業の概要	近代世界システム論や環境史をめぐる論議動向を概観しつつ、ヨーロッパにおける前近代社会の形成過程を諸地域・諸国家の結合する世界的なシステムのレベルで把握するという、社会経済史的な考察方法を理解する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 先行研究の整理と史資料の読解																		
目標2 修士論文を作成する力の育成																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ヨーロッパにおける初期社会研究の概観																		
2 ヨーロッパにおける初期社会研究の概観																		
3 ヨーロッパにおける初期社会研究の概観																		
4 初期社会についての国家・地域各論																		
5 初期社会についての国家・地域各論																		
6 初期社会についての国家・地域各論																		
7 定住地研究についての研究概観																		
8 定住地研究についての研究概観																		
9 定住地研究についての研究概観																		
10 定住史研究における国家・地域各論																		
11 定住史研究における国家・地域各論																		
12 定住史研究における国家・地域各論																		
13 社会形成史についての研究概観																		
14 社会形成史についての研究概観																		
15 社会形成史についての研究概観																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業課題に関連する報告要旨づくりなどに取り組み、複数の先行研究についての調査と文献リストづくり等を行う					工夫	その他の										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	課題に関して、先行研究などの調査などを行ったうえで、要旨を作成する。5 h																
	事後学修	教員およびほかの院生からの指摘を踏まえて、報告要旨の修正を行い、さらに先行研究などの調査などを加える。5 h																
教科書	外国語文献を使用するが、講義の際に説明																	
参考書	関連する文献を講義の際に紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	授業における報告	40%																
	最終レポート	60%																
注意事項																		
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		西洋経済史特研 (Economic History of western Europe Advanced Research I)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択		2	1、2	経済学研究科 博士前期	後期	木6	氏名 城戸 照子 E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946											
授業の概要	ヨーロッパの前近代＝封建社会、中世と近世の社会経済構造を、貨幣と銀の流れの観点から解明する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	西洋の前近代社会の歴史の知識を増やす																	
目標2	ヨーロッパの商業と貨幣について、知識を深める																	
目標3	西洋前近代社会の造幣に関連する金属加工業や鋳業の在り方を知る																	
目標4	日本語テキストでヨーロッパの近世から近代の歴史の流れをみる																	
目標5	英語のテキストを読むことに慣れる																	
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 前近代西洋の、中世と近世の歴史のアウトラインを知る																		
2 中世のヨーロッパとイスラームの関係を知る																		
3 16世紀ヨーロッパへの銀の流入と「価格革命」を知る																		
4 近世におけるヨーロッパ・アメリカ・アジアの銀の流れを検討する																		
5 中国の銀貨について知る																		
6 日本の銀輸出がグローバル・エコノミーにどのようにリンクしたか、考える																		
7 決済手段としての貨幣の形と銀のインゴットやバーの形での決済を知る																		
8 オーストリアのターラー大型銀貨から、アメリカ大陸のダラー(ドル)へ																		
9 北アメリカ大陸でのスペイン・ピアストル銀貨の普及を知る																		
10 英語テキストから、近世ヨーロッパの銀貨のアメリカへの進出を知る(1)イタリア半島の場合																		
11 英語テキストから、近世ヨーロッパの銀貨のアメリカへの進出を知る(2)スペイン「帝国」の場合																		
12 英語テキストから、近世ヨーロッパの銀貨のアメリカへの進出を知る(3)オーストリア「帝国」の場合																		
13 貴金属貨幣と「信用」の発明(1)																		
14 貴金属貨幣と「信用」の発明(2)																		
15 市場の成立に不可欠の決済手段としての「貨幣」を問い直す																		
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○		英語テキストを予習して日本語に訳す練習をする。それを土台として相互に討論の練習をする。また英文テキストに慣れるまで、日本語でのテキストによって基礎知識と基本タームの定義を得る。				工夫その他の									
準備学修		日本語テキストで、歴史の流れを抑えておく(1h)。英文テキストの予習とキーワードの選定をする(1h)。																
事後学修		英文テキストの和訳の作成(2h)																
教科書	日本語テキストは、近藤和彦(2018)『近世ヨーロッパ』(世界史リブレット)山川出版社 および、岸本美緒(2019)『1571年 銀の大流通と国家統合(歴史の転換期)』(歴史の転換点)山川出版社。																	
参考書	講義中に指定する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	毎回のゼミにおける報告内容と回数。						50%	○	○	○	○	○						
	他のゼミ生への質問と討論などにおける発言内容と回数。						20%	○			○							
	学期末レポート(課題は本人が選択)。						30%	○	○	○	○	○						
注意事項	欠席する場合は、なるべく事前、もしくは事後に、メールで連絡するようにお願いしたい。またMoodleを利用してテキスト配布などをする。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					授業形式													
KE40I219		多文化共生社会特研(Advanced Research on Multiculturalism)										対面													
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																		
選択		2		博士前期課程	前期	木7	氏名 久保田亮 E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730																		
授業の概要	グローバル化が進展する現代世界において、わたしたちが生活する地域社会や職場・教育環境も着実に多文化化・多民族化しています。また、そうした現状のなかで「多文化共生」ということばをキーワードとする、社会問題の解決に向けた取り組みが様々なレベルで実施されています。以上の点を踏まえ、この授業では次の３点を学習する機会を提供します。 多文化化・多民族化する日本社会の現状と対応を多角的に理解すること、 多文化共生と各自の専門領域のつながりについての理解を深めること、 ディスカッション、プレゼンテーション、論文執筆など、多文化化が進展する社会環境・職場教育環境を生き抜いていくためのコミュニケーション力を身につけること。																								
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
目標1	授業で学習した概念・事例について正確かつ詳細な説明ができる。							○																	
目標2	現代日本の地域社会や教育／職場環境の多文化化および多民族化の状況とそれが生み出す諸問題について理解する。											○													
目標3	多文化共生という概念について説明ができる。								○																
目標4	ディスカッション、プレゼンテーション、資料収集、論文執筆など、多文化的環境で特に必要とされる知識や技法を身につける。											○													
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1	ガイダンス（授業概要、単位認定基準、スケジュールの説明）																								
2	ディスカッションの技法																								
3	グループディスカッション（１）																								
4	プレゼン・論文執筆の技法（１）																								
5	プレゼン・論文執筆の技法（２）																								
6	多文化共生の意味とその実態（１）																								
7	多文化共生の意味とその実態（２）																								
8	グループディスカッション（２）																								
9	多文化化する地域社会																								
10	多文化化する職場・教育環境																								
11	グループディスカッション（３）																								
12	日本社会の多民族化（１）																								
13	日本社会の多民族化（２）																								
14	日本社会の多民族化（３）																								
15	グループディスカッション（４）																								
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	○	授業では複数回、授業内容に関するグループディスカッションを実施します。議論に必要な文献渉猟を事前に行うことを推奨します。						工夫その他の	授業で用いる資料配布、課題の提出、連絡事項の周知などにMoodleを使用します。															
	B:意見の表現・交換	○																							
	C:応用志向	○																							
	D:知識の活用・創造	○																							
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配布資料，参考文献に対して目を通し，予習する（15h）．																							
	事後学修	ノートなどを利用して，授業での学習成果についての確認作業を行うとともに，配布資料，ノート，参考文献を用いて復習する（15h）																							
教科書	教科書は指定しませんが、必要に応じて授業内で指示します。																								
参考書	授業中に適宜紹介し、必要に応じて配布します。																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10												
	ミニッツコメントの提出状況・記載内容		30%	○		○																			
	グループディスカッションへの積極的な参加および議論への貢献		20%		○	○																			
	課題の提出状況および内容評価		10%	○	○																				
	学期末レポート		40%	○	○	○	○																		
注意事項	この授業では、受講生が積極的に発言することを強く求めます。 授業内容は、必要に応じて変更する場合があります。																								
備考																									
リンク																									
	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
KE10I123		国際経済学演習(International Economics Seminar)							対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修		2					氏名 柴田 茂紀												
							E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715												
授業の概要		理論・政策・歴史など幅広い観点から、現在の「グローバル経済を見る眼」を養う。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 現代に至る国際貿易システムの変遷を理解できる。									○	○									
目標2 国際経済に関する問題点がいかに解決されてきたのか、または解決されずに残されているのか分析する。									○	○									
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 国際経済の基礎理論を学ぶ1																			
2 国際経済の基礎理論を学ぶ2																			
3 国際経済の基礎理論を学ぶ3																			
4 国際経済の基礎理論を学ぶ4																			
5 国際経済の基礎理論を学ぶ5																			
6 国際経済の基礎理論を応用する1																			
7 国際経済の基礎理論を応用する2																			
8 国際経済の基礎理論を応用する3																			
9 国際経済の基礎理論を応用する4																			
10 国際経済の基礎理論を応用する5																			
11 国際経済の事例分析を行う1																			
12 国際経済の事例分析を行う2																			
13 国際経済の事例分析を行う3																			
14 国際経済の事例分析を行う4																			
15 国際経済の事例分析を行う5																			
ラーニングチェックシート		A:知識の定着・確認		○	基礎・応用・事例分析の相互関係から、研究対象の理解を深めていきます(15h)			工夫その他の	演習内外での研究発表を通じて多様な質疑応答を経験するため、多面的な理解が可能になります。(15h)										
時間外学習の内容と時間の目安		準備学習	課題図書の読み込みと発表準備																
		事後学習	発表の振り返り																
教科書		第1回目の授業で指示します。																	
参考書		必要に応じて紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	平常点	60%	○	○															
	レポート	40%	○	○															
注意事項		・受講者の発表を中心に授業を進めます。 ・理論的な知識が不十分な場合は、個別に課題を出します。																	
備考																			
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
KE10I127		国際金融論演習(International Finance Seminar)							対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修		2		経済学研究科 博士前期	前期		氏名 小笠原 悟 E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713												
授業の概要	前半は金融、国際金融に関する専門書の輪読を中心にすすめ、各自の修士論文執筆の準備をします。後半には各自の修士論文のテーマに沿った論文を取り上げ検討します。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 国際金融の諸理論を理解し、問題意識を持って論文作成に取り組むこと																			
目標2																			
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 ガイダンスー修士論文作成に向けて																			
2 研究テーマと研究計画の確認																			
3 論文作成のための調査方法と分析方法																			
4 中間報告の準備（報告会の日程に合わせる）																			
5 専門分野の文献の輪読とディスカッション（5～14回）																			
6 総括																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
ラーニング目標	A:知識の定着・確認		○	テキストを輪読しながら現代の国際金融に関わる問題点を検討します。						工夫その他の									
	B:意見の表現・交換		○																
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造		○																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	授業の前までに必ず指定テキストを読み、レジメを作成すること（30h）。																	
	事後学習	授業での学びを生かし、修士論文作成の準備をすること（15h）																	
教科書	ガイダンスで指示します																		
参考書	適宜、指示します																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	授業での報告						50%												
	授業への貢献度						50%												
注意事項	無断欠席は厳禁です。																		
備考	受講生のバックグラウンドや授業の進行状況によって内容が変わる場合があります。																		
リンク																			
	URL																		

担当教員の 実務経験の 有無	。
教員の実務 経験	エコノミスト、為替ストラテジスト
実務経験を いかした教 育内容	外資系金融機関でエコノミスト、為替ストラテジストとしての経験を有する教員が、グローバルな視点から実体経済と金融の関係について解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
KE10I131		証券市場論演習(Securities Market Seminar)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修		2	1	経済学研究科 博士前期	前期		氏名 金 珍 奎											
							E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線 7690											
授業の概要	受講者の研究テーマに基づき、授業を進めます。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 修士論文の作成に必要な力を養うことにあります。									○	○	○							
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 修士論文のテーマに沿って進める。																		
2																		
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
ラーニング ポイント グループ	A:知識の定着・確認	○	発表と議論を積極的に行う。				工夫 その他											
	B:意見の表現・交換	○																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修	テキストの発表準備をする(20h)。																
	事後 学修	学習内容の復習を行う(20h)。																
教科書	受講者と相談して決めます。																	
参考書	『証券投資の思想革命』東洋経済新報社、2006年。 ピーター・L. バーンスタイン (著), 青山 譲, 山口 勝業 (翻訳)																	
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	発表	100%	○															
注意事項																		
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)				授業形式										
KE10I139		EU政治経済論演習(The Europeanization of the EU Economy Seminar)								対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
必修		2		経済学研究科 博士前期	前期		氏名 デイ スティーブン													
							E-mail sriday@oita-u.ac.jp 内線 6676													
授業概要	The goal of this seminar will be to analyze contemporary developments in the European Union as they happen. At the same time we will build a framework of understanding about the European project from an historical and contemporary perspective. Every two weeks, the focal point of the seminar will be an unfolding news story. We will subsequently explore the issues contained within that story as we think about the nature of the relationship between the EU and its Member States.																			
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	Develop an understanding of the EU in order to discuss events in a critical and cogent manner										○	○				○				
目標2	Build-up a confidence to engage with and analyze events as they happen										○	○				○				
目標3	Display an awareness and understanding of different perspectives towards the process of European integration										○	○	○			○	○			
目標4	Develop an understanding of the intricacies of Brexit										○	○				○				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1		Turbulent relations between the Member States and the European Union																		
2		Assessing the pros and cons of European integration																		
3		Issues relating to the oft-cited 'existential crisis' faced by the EU in recent years																		
4		The rise of populism across the EU member states																		
5		The EU in a global context – thinking about the EU's 'soft-power '																		
6		The EU as a model for regional integration																		
7		Using theoretical ideas to help our understanding of EU integration																		
8		Parliamentary elections across the EU Member States and the impact of changes in national governments																		
9		European Parliamentary elections																		
10		Party politics at the national and European level																		
11		Relations between the key institutions of the European Union																		
12		The impact of the increased electoral strength of Eurosceptic political forces																		
13		The UK and Brexit																		
14		The process of Brexit negotiations																		
15		The implementation and consequence of Brexit																		
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認	○	As an interactive class there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include: quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a wide range of media reports.										工夫その他の							
	B:意見の表現・交換	○																		
	C:応用志向	○																		
	D:知識の活用・創造	○																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	30 hours - In order to consolidate the class-based material read specific chapters from the text book as well as a number of newspaper articles that will be provided in class.																		
	事後学修	15 hours - Reflect on the issues raised in the class discussion by writing a brief academic diary to be presented at the next class. Work towards structuring and writing the assigned essay.																		
教科書	Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán (Eds) European Union Politics 7th Edition, Oxford University Press, 2022 『「ブレグジット」という激震―混迷するイギリス政治』スティーブン・デイ・カウ昌幸 共著 2021年, ミネルヴァ書房 Learners will be provided with additional relevant material																			
参考書	Journal of Common Market Studies																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
	Essay		40%	○		○														
	Portfolio of work		40%	○	○	○														
	Class-based exercises		20%	○	○	○														
注意事項	This seminar will be conducted in English. Learners are strongly encouraged to take the classes entitled 'The Europeanization of the EU Economy – Advanced Research I&II'																			
備考	A willingness to engage in critical thinking as we make use of a plethora of different source material: newspaper, academic journals, video and web-based material etc.																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
KE10I143		経済史演習(Economic History Advanced Research Seminar)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修		2		経済学研究科 博士前期	前期		氏名 市原 宏一											
							E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719											
授業の概要	史資料に基づく先行研究成果の整理検討により、工業化前社会の社会経済的特徴を環バルト海世界のヒトと物の交流を題材として検証する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 先行研究の整理と史資料の読解を行える																		
目標2 文献史料と考古学資料の総合的な検討を行える																		
目標3 修士論文作成の力を育める																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 ガイダンス																		
2 文献史料に基づく先行研究の整理(1)																		
3 文献史料に基づく先行研究の整理(2)																		
4 文献史料に基づく先行研究の整理(3)																		
5 文献史料に基づく先行研究の整理(4)																		
6 文献史料に基づく先行研究の整理(5)																		
7 文献史料に基づく先行研究の整理(6)																		
8 中間報告(1)																		
9 考古学資料に基づく先行研究の整理(1)																		
10 考古学資料に基づく先行研究の整理(2)																		
11 考古学資料に基づく先行研究の整理(3)																		
12 考古学資料に基づく先行研究の整理(4)																		
13 考古学資料に基づく先行研究の整理(5)																		
14 考古学資料に基づく先行研究の整理(6)																		
15 最終報告																		
ラ イ ク ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認	授業課題に関連する報告要旨づくりなどに取り組み、複数の先行研究についての調査と文献リストづくり等を行う					工 夫 そ の 他 の											
	B:意見の表現・交換	、これらを通じて修士論文課題を設定する。																
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	自身の関心に基づく課題に関して、先行研究などの調査、翻訳などを行ったうえで、要旨を作成する。5 h																
	事後 学修	教員およびほかの院生からの指摘を踏まえて、報告要旨の修正を行い、さらに先行研究などの調査、翻訳などを加える。5 h																
教科書	自身の課題に適した文献を授業に際して設定する。																	
参考書	関連する文献を講義の際に紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10						
	授業での報告	40%																
	最終報告	60%																
注意事項																		
備考																		
リンク																		
	URL																	

ナンバリング KE101147		授業科目名(科目の英文名) 西洋経済史演習(Economic History of Western Europe Seminar)				区分・【新主題】/(分野)		授業形式 対面														
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
必修		2		経済学研究科 博士前期	前後		氏名 城戸 照子															
							E-mail tkido@oita-u.ac.jp 内線 7946															
授業の概要	演習のテーマとして、中世ヨーロッパの社会経済構造を解明するために、「貨幣」に注目する。造幣権力、造幣技術、貨幣の機能、貨幣の意匠と貨幣をめぐる同時代人の心性などをテーマとして、分析にとりかかる。授業では、テーマが明解な論文を複数読み、Web サイトを利用して、貨幣の現物の画像を多く見ることで、テーマの実像に接近する。																					
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	ヨーロッパでの研究動向の調べ方に慣れる。																					
目標2	英文論文の読み方に慣れる。																					
目標3	webサイトを利用した検索に慣れる。																					
目標4	日欧の貨幣をめぐる研究動向を知る。																					
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1		貨幣の機能 1 交換手段 1																				
2		貨幣の機能 2 交換手段 2																				
3		貨幣の機能 3 交換手段 3																				
4		交換の場所1. 中世の市場 1																				
5		交換の場所 2 中世の市場 2																				
6		交換の場所 3 中世の市場 3（イスラーム）																				
7		貨幣の機能 4 価値尺度 1																				
8		貨幣の機能 5 価値尺度 2																				
9		貨幣の機能 6 価値尺度 3																				
10		度量衡と貨幣 1																				
11		度量衡と貨幣 2																				
12		度量衡と貨幣 3																				
13		貨幣の価値保存 1																				
14		貨幣の価値保存 2																				
15		貨幣の価値保存 3																				
ラーニング ニ ー グ	A:知識の定着・確認		○		報告レジュメを作り、討論することで内容の理解を深める（1h）。日本語テキスト、英語テキストの読解と、特に英語テキストの日本語翻訳テキストを作成し、ゼミ後に文章を改良する（1h）。						工夫 その 他の											
	B:意見の表現・交換		○																			
	C:応用志向																					
	D:知識の活用・創造																					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	英語論文の読解。																				
	事後 学修	英語論文を翻訳しキーワード理解を深める。																				
教科書		A Cultural History of Money in the Medieval Age, ed. by Rory Maismith, Bloomsbury, 2019.																				
参考書		黒田明伸（2014）『増補新版 世界システムの貨幣史』岩波書店、を参考書とする。日本語でのキーワードに慣れ、ヨーロッパと比較対照するさいの、ユーラシアを中心とする貨幣史研究動向を知っておく。																				
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	毎回のゼミでの報告と討論						50%	○	○	○												
	日本語訳の論文テキストの作成						50%				○											
注意事項		Moodle で、テキスト配布やゼミ予定の連絡をするので、こまめに見ておいてほしい。																				
備考																						
リンク																						
	URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
KE10I163		開発経済学演習(Development Economics Seminar)							対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修		2		経済学部			氏名 木村 雄一											
							E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689											
授業の概要	経済発展、貧困削減についての開発経済学の研究を実行可能にするため、これらトピックの議論内容を把握し、研究方法として計量経済学の方法についても参照する。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 開発経済学の分野で、自ら研究テーマを設定、実証研究を遂行すること。																		
目標2																		
目標3																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 経済発展、貧困削減についての文献を展望																		
2 経済発展、貧困削減についての文献を展望																		
3 経済発展、貧困削減についての文献を展望																		
4 修士論文の問題設定、研究方法のための議論																		
5 修士論文の問題設定、研究方法のための議論																		
6 修士論文の問題設定、研究方法のための議論																		
7 計量経済学、それを使った実証分析の方法																		
8 計量経済学、それを使った実証分析の方法																		
9 計量経済学、それを使った実証分析の方法																		
10 経済発展、貧困削減などに関するサーベイ文献参照																		
11 経済発展、貧困削減などに関するサーベイ文献参照																		
12 経済発展、貧困削減などに関するサーベイ文献参照																		
13 論文参照																		
14 論文参照																		
15 論文参照																		
ラック ニ ン グ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		常に議論を通じ、論点を発見し研究として実行する方法を考える。		工夫 その 他の												
時間外学習 の内容と時 間の目安		準備 学修		研究の論点の把握、マテリアルの内容把握。														
		事後 学修		マテリアルから新たに得られた論点を研究の論点に反映するための論点整理。														
教科書		指定なし。																
参考書		World Development, Journal of Development Economics などの専門誌、その他、開発経済学、経済発展、貧困削減などの関連書籍。計量経済学については Fumio Hayashi 2000. Econometrics. Princeton University Press.																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法				割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	準備、参加と議論				100%													
注意事項																		
備考		この分野の書籍や論文には英語のものが多く、それらを読むことができれば望ましい。																
リンク																		
		URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
		文化動態論演習(Cultural dynamics Seminar)							対面										
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
必修		2					氏名 久保田亮												
							E-mail yuralria@oita-u.ac.jp 内線 7730												
授業の概要	文化人類学の概念・理論を学習することを通して、現代社会を生きる人間の営みを総体的に理解する眼を養います。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 文化人類学の理論、方法論についての知識を深める。									○				○						
目標2 社会調査方法としてのフィールドワークの技術を習得する。										○				○					
目標3 それぞれの現場における人間の営みを資料に基づき考察できる。											○								
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
授業の内容																			
1 ガイダンス																			
2 文化人類学の理論(1):言語と文化																			
3 文化人類学の理論(2):言語の多様性																			
4 文化人類学の理論(3):生業																			
5 文化人類学の理論(4):贈与経済																			
6 文化人類学の理論(5):婚姻																			
7 文化人類学の理論(6):家族・親族																			
8 文化人類学の理論(7):性とセクシュアリティ																			
9 文化人類学の理論(8):人種																			
10 文化人類学の理論(9):ヒトの生物学的差異																			
11 文化人類学の理論(10):エスニシティ																			
12 文化人類学の理論(11):階級																			
13 文化人類学の理論(12):国家																			
14 文化人類学の理論(13):法と政治																			
15 レポート発表とフィードバック																			
ラーニング	A:知識の定着・確認		文献や調査資料に基づくディスカッションが中心の授業となります。				工夫	その他の	授業で使用した論文・文字資料・映像資料などはmoodleに保存します。										
	B:意見の表現・交換	○																	
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備	指定された文献を精読し、授業での意見交換のための準備を行う(15h)																	
	事後	授業でのディスカッションを踏まえ、関連する論文・書籍の渉猟を行い、トピックについての理解をさらに深める(15h)。																	
教科書	読書課題は授業内で適宜デジタル資料の形式で配布します。																		
参考書	必要に応じて紹介します。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	期末レポート		100%	○	○	○													
注意事項																			
備考																			
リンク																			
	URL																		